

## 第3学年B組 英語科授業案

場 所 3 B 教室  
授業者 天野 万喜男

### 1 単元 Salmon for Sushi from the World (Exchanging Ideas)

#### 2 単元の構想

##### (1) 本単元でめざす子どもの姿

子どもは、今や日本ばかりでなく海外でもすしの食材の定番となったサーモンが、各国で養殖されていることに興味をもち追究を始める。養殖の様子や、漁獲高減少について知った子どもは、国が支え合って食料生産を行う意義を見出し、その事実を広めたり、他の食材についても調べたりする。

##### (2) 本単元で獲得させたい力

子どもは、世界に誇る和食の代表すしについての追究を通して、日本と外国の文化の違いを理解し、それぞれのよさに気づく Intercultural competence を獲得している。一方で、Organizational competence として世界の公用語となった英語を効果的に身につけ、コミュニケーションをとる手段を考え、実践し始めている。

本単元は、世界で愛されるすしの食材サーモンを教材とする。サーモンは、すしの食材としての歴史は浅いが、古くから世界で食され、今や日本のみならず、すしの食材として広く認められている。その生産地は、ノルウェー、チリ、北米など多岐に及び、多くは養殖である。そこには、安全性、漁獲高減少、産業発展といったことがらが、複雑に絡んでいる。子どもは、世界のサーモンの食文化について聞き取ったり、養殖業者とのやりとりを行ったりして、外国の人の考え方を尊重、理解する Intercultural competence を伸長する。また子どもは、サーモン養殖の現状や、これまでの歴史を説明できるようにするために、受身形や現在完了形といった、新たな Organizational competence を獲得する。

##### (3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

PROSPECTの段階では、サーモンのすしの見た目や味を、改めて堪能させる。そのうえで、サーモンの多くが輸入であることを知らせる。子どもは、インターネットで論じられている養殖サーモンの危険性、どこでどのように生産されているのか、世界ではどのように食されているのかなどに関心をもつ。そして、サーモンがノルウェーで日本人の好みに合うように工夫して養殖されている映像を視聴させることで、さまざまな生産先を調べ、各国の様子を聞き取る計画を立てる。

PROGRESSの段階では、子どもは、サーモンの養殖の様子や、外国でのサーモンの食文化について、ノルウェー、チリなどの養殖業者に連絡を取ったり、外国の人に聞き取ったりして調べる。意見交流においては、サーモン養殖をさらに推進すべきだと考える子どもの意見を取り上げ、意見交流のテーマとする。さらに、世界で漁獲高が減少していることを訴える映像を視聴させることで、安全かつ計画的に養殖が行われるべきであると考えている。子どもは、養殖業者に、養殖に対する要望書をまとめて送付したり、関心の薄い外国の人に知らせようとまとめを作成したりする。

PROCEEDの段階では、要望書に対する返事を受け取ったうえで、今後の世界の食料生産のあり方について語る意見交流の場を設ける。国が互いに支え合う食料生産を計画すべきであるという価値を見つけ出した子どもは、よりよい食料生産のあり方について考えたり、食材を大切にしたりして生活する。



5 単元構想表 (15時間完了)

【第9時終了時】

段階	主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	英語科で重視する力
PROSPECT	<p>○<b>具体物やデータの提示</b> 子どものサーモンに対する意識を高めるために、サーモンのすしに出会わせ、いろいろな国から輸入されている資料を提示する</p>	<p>すしは今や世界遺産にも登録される日本の文化だ</p> <p>グロービッシュの考えをもとに、多くの外国人と話したい</p>	
	<p>○<b>意見交流のテーマ設定</b> サーモン養殖の問題点に目を向けさせるために、意見交流のテーマを“Is salmon dangerous?”とする</p>	<p>サーモンはどこで生産されているのだろうか 1～3時</p> <p>すしの代表的食材サーモンはどこで養殖されているのか</p> <p>養殖サーモンは危険と聞いた。本当だろうか</p> <p>世界ではどのように食されているのだろうか</p> <p>世界各国でどのようにサーモンが養殖されているのか調べてみたいといけない</p>	
	<p>○<b>人との出会い</b> さまざまな海外の情報を得るようするために、サーモン業者や日本人、外国人の聞き取りを推奨する</p>	<p>サーモンについて、養殖業者や外国人の人から聞き取りをする 4～10時 (本時10)</p> <p>養殖サーモンは、日本だけでなく世界各国へ輸出されている</p> <p>えさや環境汚染の問題はあるが、養殖技術は発達している</p> <p>サーモンはすしの食材だけでなく世界で広く食されている</p>	
	<p>○<b>意見交流のテーマ設定</b> これからの水産資源活用に目を向けさせるために、意見交流のテーマを“We should promote salmon farming more.”とする</p>	<p>なぜ養殖サーモンは日本だけでなく世界に広まったのだろうか</p> <p>サーモン養殖業者に質問を送り、安全性などを聞きたい</p> <p>自然や環境のことを考えた養殖は推進されるべきだ</p> <p>サーモン養殖の現状を外国の人はよく知らない</p> <p>きちんと管理されていれば、危険性はなさそうだ</p> <p>世界の漁獲高は、1950年代から減少している。大変だ</p> <p>外国の人にも養殖の現状を知らせ、一緒に考えたい</p>	
	<p>○<b>意見交流のテーマ設定</b> 世界の食料生産に目を向けさせるために、単元締めくくりの意見交流のテーマを“How will food production in the world be done?”とする</p>	<p>サーモンの養殖は、世界で魚が捕れなくなっている今、積極的に押し進めるべきだ。環境問題や安全性を第一に養殖が行われるようにしていきたい</p> <p>養殖業者へ要望書を送ったり外国の人に漁業の現状を伝えたりする 11～15時</p> <p>養殖業者は世界の消費者のことをよく調べている</p> <p>これまで以上に安全かつ計画的な食料生産をお願いしたい</p> <p>養殖について外国の人に広く知らせることができた</p> <p>消費者が生産元について知っておくことも大切だ</p> <p>他の食材も含め、食料生産は世界規模で考えるべきだ</p> <p>生産者と消費者が互いをよく知ることが大切にしていきたい</p> <p>世界の国々がお互いに支え合って食料は生産されている。生産元に向けた食生活を送るようになりたい</p>	
		<p>食材の生産元に目を向けて、食生活を送る</p> <p>世界の国から輸入されている食材を、むだにしないで食べるようにしたい</p> <p>食材がどこでどのように作られているか、関心をもって生活するようにしたい</p>	

☆Strategic competence  
・単元をとおして使用する表現を見通し、EBとしてまとめ、毎時間練習し使えるようにする

☆Organizational competence  
・受け身と現在完了形を獲得し、養殖の現状や歴史について説明できるようにする

☆Intercultural competence  
・外国の養殖業者や外国人のサーモンに対する考えを聞き取り、理解しようとする

☆Intercultural competence  
・世界の食糧生産について知り、国が互いに支え合っていることを理解する



#### 4 本時の構想 (10/15)

普段食べているすしのサーモンのほぼすべてが、世界各国から輸入されていることを知った子どもは、サーモンの産地に興味を抱き、インターネットを中心に追究を進めた。危険性を訴える内容が多いことから“Is salmon dangerous?”をテーマに意見交流を行った。インターネット上の情報だけでなく、正しく判断をするために、調べを進める対象を具体的に考え始めた子どもたちに、サーモン養殖を行うノルウェーの業者を特集した映像を視聴させた。子どもは、今後の追究の方向について整理した後、ノルウェーやチリの業者と質問のやりとりをしたり、世界のサーモン事情について外国の人から聞き取りをしたりした。

本時は、「サーモン養殖は世界のために大切である。もっと養殖を推進すべきだ」と考える子どもらの意見を取り上げ、意見交流のテーマとする。サーモン養殖に対する考えをサーモン業者や外国の人から聞き取った子どもは、安全性、環境や自然、漁獲高の減少といった視点から意見を出す。そこで、世界の漁獲高は1950年代から減少し、このままでは海から魚がいなくなると訴える映像を視聴させ、焦点化を図る。これまで養殖の問題点にばかり目が向いていた子どもは、環境や安全性を第一に業者に養殖を進めてもらうよう要望書をまとめたり、養殖に関心の薄い外国の人に実情を知ってもらおうとしたりする。

